# 令和元年９月（第５回）教育委員会　議事録

## １　開会及び閉会の日時

令和元年９月２５日（水）午前１０時～午前１１時４０分

## ２　場所

井波庁舎　３０１会議室

## ３　出席委員

・教　　育　　長　松本　謙一　　・同職務代理者　江川　由貴子
・教　育　委　員　林　　紀孝　　・教　育　委　員　水上　和夫
・教　育　委　員　竹部　俊惠

## ４　説明出席者

・教育委員会教育部長　村上　紀道　　・教育総務課長　氏家　智伸
・教育部参事こども課長　武田　秀隆　　・生涯学習スポーツ課長　桜野　高弘
・スキー国体推進室長　水上　武司　　・中央図書館長　安川　絹枝
・福光福祉会館長　鳥越　知証　　・教育センター所長　新明　春生
・教育総務課副参事　北島　一朗　　・ブランド戦略部次長文化・世界遺産課長　此尾　治和
・教育総務課主幹　堀　　桂子　　・教育総務課主事　勇﨑　夏希

## ５　傍聴者

なし

## ６　会議の要旨

午前１０時、教育長が開会を宣し、議事に入る。

１　教育長の報告

・南砺市総合防災訓練について

８月２５日に城端地域で実施された。特筆すべきは、城端小学校の子どもたちが大勢参加していた点で、子どもたちにも直接的な体験ができた事はよかったと思う。来年から、地域が変わってもそれぞれの学校に呼びかけてみたい。

・９月定例議会について

教育委員会で新聞を賑わせたことが二つあった。共通点としては、予算の承認を受けていない状態で､それに関わる事業を実施してしまったという点になる。一つは夏休みの地域主体の放課後児童クラブの補助金についてのことになる。補助金申請が７月に出されたため、６月の議会には間に合わず、承認を受けないまま事業を実施してしまった。もう一つは８月の第２次教育振興基本計画策定委員会についてのことになる。予算化を失念しており、９月定例議会に提出した。もっと早くに分かっていたのではないかということであった。今後はこのようなことが無いようにしたい。

・南砺市ＰＴＡ連合会について

９月４日に市内全小中学校のＰＴＡ会長・副会長が集まる南砺市ＰＴＡ連合会が城端中学校で行われた。そこに氏家教育総務課長と出向き、来年度から取り入れる時差出勤や多学級合同指導体制について、保護者としてどう思われるか意見を聞きいてきた。保護者の方々には快諾していただき、ぜひこの方向で進

めてほしいということになった。

・第２回井口地域小中一貫校設置協議会について

９月６日に開催された。一番問題になった校名については、「井口」という地域名を残してほしいという住民の意見と、南砺市の義務教育学校をつくることを考えると「井口」を残すことに賛同しかねるという意見があった。現在は保留になっており、次回へ持ち越すことになった。

・その他、教育長が出席した会議・行事について概要説明があった。

２　前回議事録の承認

全員異議なく承認した。

３　協議事項

（１）　第２次南砺市教育振興基本計画（案）について

各課長から説明した。議事録の３ページから５ページのとおり意見が付された。

（２）　令和元年度教育委員会事務の点検・評価報告書（案）について

教育総務課長から説明した。全員異議なく承認した。

（３）　南砺市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正の訂正について

こども課長から説明した。全員異議なく承認した。

（４）　南砺市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用負担に関する規則の一部訂正について

こども課長から説明した。全員異議なく承認した。

（５）　南砺市子ども・子育て支援法施行規則の一部改正について

こども課長から説明した。全員異議なく承認した。

（６）　南砺市保育園における保育の利用に関する規則の一部改正について

こども課長から説明した。全員異議なく承認した。

（７）　南砺市病児・病後児保育事業の実施に関する規則の制定について

こども課長から説明した。全員異議なく承認した。

（８）　第２期南砺市子ども・子育て支援事業計画の素案について

こども課長から説明した。議事録の５ページから６ページのとおり意見が付された。

４　報告事項

（１）　山村留学定住事業「源流の森と山村の暮らし体験キャンプ」ついて

教育総務課長から説明した。

（２）　令和元年度市民大学講座について

生涯学習スポーツ課長から説明した。

（３）　中学生学習支援推進事業について

生涯学習スポーツ課長から説明した。

（４）　国登録有形文化財の登録について

文化・世界遺産課長から説明した。

（５）　富山県駅伝競争大会　富山県小学生駅伝競争大会について

生涯学習スポーツ課長から説明した。

5　その他

（１）　第１回南砺市総合教育会議について

教育総務課長から説明した。

（２）　教育委員県外視察研修について

教育総務課長から説明した。

（３）　令和元年度南砺市教育センター主催・協業「夏季研修会」の実績（概要）について

教育センター所長から説明した。

（４）　南砺市立図書館の９～１０月の事業について

中央図書館長から説明した。

（５）　松村謙三フォーラム秋季プレ研修会について

福光福祉会館長から説明した。

6　今後の日程

次回教育委員会開催（予定）

日時　令和元年１１月１１日（月）午後２時

場所　井波庁舎　３０１会議室

## 7　議事

協議事項について

**協議事項（１）関係**

○教　育　委　員　SDGs の取組みがそれぞれの基本目標ごとに位置づけてある。位置づけたことはよいと思うが、SDGs の取組みを入れることで、何が変わったのか、特に南砺市としてどこを見直したのか。その部分を明確にしないと、ただ位置づけてあるだけでは意味がない。この中には、ほとんど達成しているようなものもあるような気がしている。SDGs は大変大きな目標であるので、理屈をつければ全部関連させることができると思う。SDGs を意識したときに、この教育振興基本計画のどこを強化し、どこに力を入れたかがわかれば、SDGs の取組みとの関連がより明確になる。

○教　育　長　第２次教育振興基本計画は、過去の５年間に実施してきたものと現状を顧みて、次の５カ年を検討し作成した。SDGs のモデル都市になったこともあり、何が SDGs と関連しているのかを洗い出したところまでが現在の状況になる。まさに教育委員さんが言われたとおりで、それぞれの活動と SDGs との関連性を明確にし、今後は教育委員会も一体化して実施していくということを自覚するにとどまっている。教育委員さんからこのようなご意見をいただいたということを策定委員会にあげたいと思う。

○教　育　委　員　南山田の地域づくり協議会にエコビレッジ推進課長さんが来られて SDGs の話をされた。１時間くらい話を聞いたが、SDGs とは何かということを我々自身がもっと知る必要があると感じた。南砺市もこれから先、今以上に SDGs に取り組むことになると思うので、そのような意味では我々自身も勉強しなければならない。

○教　育　委　員　７ページ（１）【現状と課題】に「いじめや不登校等の問題行動の解決のために、教職員以外にも」と書いてあるが、「教職員とともに」の方がよいと思う。また、２８ページのこども課の幼児教育の部分では、特に非認知スキルを幼児教育の一つの要にすることが書いてある。保育園等で取り組んでいただけることは非常にありがたいが、非認知スキルという新しい概念を保護者は認知しているのか。それとも今から知っていただくということか。

○教　育　長　全ての保護者が理解するところまでは到達していないと思う。

○教　育　委　員　そうであるならば、組織として保護者の方々と共に非認知スキルについて学ぶ機会が必要だと思う。保育園と家庭では当然働きが異なるため、保育園で非認知スキルを前提に取り組んでいても、保護者にその認識がないという状況ではあまり意味がない。おそらく日本中が、まだまだ認知スキルを基準に動いているので、特に幼児教育では非認知スキルが大事だということを前面に出すなら、保護者の方々に理解してもらうような働きかけを進めていくべきだと思った。

○教　育　長　３１ページに②安心できる相談体制と子育て情報の発信の充実とあり、この子育て情報として全部の家庭に向けて、非認知スキルが大事だという情報を発信していくという対応ではどうか。

○教　育　委　員　非認知スキルや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」１０の項目などを意識している保護者はほとんどいないと思うので、保護者全体に理解してもらうことが大切になる。むしろ認知スキルに一生懸命で、どこの高校に進むか、どこの大学に進むかということが教育の一つの目標みたいになってしまっている。

○教　育　長　非認知スキルが大事だということを全ての保護者に理解してもらえるような、同じ教育観・同じ価値観に立てるような働きかけが足りないというご指摘だと思う。

○教　育　委　員　共に歩むということが大事だと思うので、その部分を加えていただければありがたい。

○教　育　委　員　非認知スキルについては、市長さんがよく言及しておられ、

それを聞いて私も勉強を始めた。幼児教育の場で非認知スキルということが言われているが、これからは学校教育の中でも非認知スキルを育てていかなくてはいけない。市長さんもそのように言われているので、幼児教育のみならず、南砺市として学校教育の中でも、非認知スキルを意識して育てていく方向が必要なのではないか。幼稚園とか保育園では非認知スキルを重要視して、学校に行ったら認知スキルが主になる状態には疑問を感じる。

○教　　育　　長　学校教育にも非認知スキルを入れていくことにしたいと思う。

○教　育　委　員　私が教員をしていたときには、積極的な生徒指導や、授業中における生徒指導ということがよく言われていた。個人的には、非認知スキルの中身自体は極めて新しいものではないと思っているが、そのようなところにスポットをあてるという考え方は非常に大事だと思う。

２９ページに【主な取組み】②職員の人材確保と資質向上とあるが、職員の人材確保は非常に大事であるにも関わらず、この文章では「保育士・看護師等の人材を確保するとともに」で終わっている。あとは全部資質向上の話になっているので、人材を確保するためにはどういう方法や具体的な施策が考えられるかということを、もう少し書いていただければよいのではないかと思った。

○教　育　委　員　２９、３０ページに「※」で子育ち支援や子育て支援の説明が書かれているが、「※」が本文中のどこにも書かれていない。また、非認知スキルについても、「※」で説明を加えていただければ分かりやすいと思う。

３８ページの数値目標について、「アートで遊ぼう参加者数」の目標値が１００人になっているが、募集定員が６０人になっている（点検・評価報告書４３ページ）。定員が６０人なのに目標が１００人というのは、難しいのではないか。

○事　　務　　局　確認させていただきたい。

○教　　育　　長　今回いただいた意見を参考にして、次の策定委員会に提出し、再度教育委員会で議論していただく方向で進めたい。

**協議事項（８）関係**

○教　育　委　員　最近は、両親が外国人であったり、父親か母親のどちらかが外国人である家庭が増えている。そのようなことを見越した支援体制や受け入れ体制を今から整えておく必要があるのではないか。これから５年間の間に、もっと増えると思うので、計画の中に入れて意識してもらえればありがたい。

○教　　育　　長　外国人児童とその子どもに関わる家庭や保護者も含めた支

援を、きちんと明示しておいてはどうかというご指摘だと思う。

○教　育　委　員　南砺市子ども・子育て支援事業計画の５９ページの重点施策では「外国につながる児童」という言葉が使われているが、南砺市教育振興基本計画の９ページでは「外国人児童生徒」という言葉が使われている。同じ内容を意味しているのか。

○教　　育　　長　使い分けるのであれば意味の違いを明確にしなければならないし、そうでないのであれば整合を図る必要があるというご指摘でよいか。また整理しておく。

**その他の意見**

○教　育　委　員　小中学校の図書館司書助手の配置が、他市と比べて南砺市は少ない印象を持っている。全学校に配置していることは間違いないが、日数や時数的に少ない気がする。また、学校によって図書の貸出を電子化している学校と、そうではない学校がある。教育委員会でどれだけ把握しておられるのか。個人的には、借りるときにバーコードを読み込む方がよいのではないかと思っているので、その実態を知りたい。図書館司書助手の勤務日数を増やし、ソフト面についても充実させて、子どもたちが本に親しむ環境を整えてほしい。できれば次回までに実態をまとめていただき、皆さんで話し合いができればよいと思っている。

午前１１時４０分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。

令和元年　　月　　日

南砺市教育委員会

教育長